

## 総務常任委員会行政視察概要

平成30年7月18日（水）

於 豊橋市議会 第3委員会室

午後1時25分～午後3時

- 1 調査概要・説明…………… 豊橋市消防本部消防長  
豊橋市消防本部南消防署消防司令  
豊橋市防災危機管理課長補佐



### 「ドローン（無人航空機）を活用した消防体制について」

豊橋市では南海トラフ地震により甚大な被害が予測されており、地震発生後に市内の被害状況を早期に把握することを目的として、平成29年7月にドローン飛行隊が結成された。今後、災害時だけではなく平常業務への活用も検討していく予定だ。業務効率化・職員の安全確保・行政費用削減を目的に「防災・消防」「広報」「施設保全」「土木」といった市政業務ごとにワーキンググループを開催している。

## 2 主な質疑応答

### (1) ドローンについて

問 ドローン導入のきっかけは。

答 平成27年9月に茨城県常総市の鬼怒川で発生した災害に、本市職員がボランテ

ィア活動を行った際、被災状況を目の当たりにした。広域的な被災を把握するには上空からの状況確認が有効であるとの認識を持ち、ドローン導入の検討を開始した。

問 ドローン飛行隊の導入効果は。

答 災害出動時、従来は無線や電話といった音声で情報共有を図っていたが、インターネット経由にて映像で市の災害対策本部に伝えることで、リアルタイムかつ視覚的に共有することができている。

問 ドローンの保守点検に至るまでの条件は規定しているか。

答 飛行時間200時間もしくは飛行回数50回いずれかに到達した際に、購入業者に保守点検を依頼している。点検期間中は、代替機の提供を受けている。

問 ドローンは全天候型であるか。

答 2台保有しているが、いずれも全天候型ではなく雨天・夜間の飛行はできない。

問 ドローンの操作訓練の体制は。

答 1班5名のチームを組み、1か月に2回ほど操作訓練を行っている。それぞれの役割はドローン操縦・周辺監視・カメラ映像確認などである。

問 ドローンと防災ヘリコプターとの用途の使い分けは。

答 水難事故・林野火災の際に使用される防災ヘリコプターが愛知県と名古屋市に1機ずつ配備されているが、派遣要請をしても当市まで30分ほどかかるといった課題がある。そのため、ドローンで災害の初期発生時の状況把握を行っている。

## (2) その他

問 市の防災担当課に対して消防本部から職員の派遣を行っているか。

答 市の防災担当課である防災危機管理課の職員20名中、5名を消防本部から派遣している。

以 上